

目指すべき学校像	国際社会に生きる人材育成を最高の目標とし、人格の完成、豊かな情操を育み、探求心旺盛な自主的・自律的な精神に満ちた心身共に健全な人間育成に期する。
重点目標	A 民族教育 在日韓国人としての自覚と矜持を涵養する。 B 学習 国際社会に主体的に適應できる能力を育てる。 C 人権教育 自主的な生活実践を通して社会に奉仕する人間を育成する。 D 学校生活 個性を伸長し、創造性を育てる。

達成度	A+	大いに達成 (90%以上)
	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (70%以上)
	C	変化が見られる (40%以上)
D	不十分 (40%未満)	

達成度は、児童アンケートで、「A:よく当てはまる」「B:やや当てはまる」の数値(%)の合計で表す。

重点目標	評価指標	具体的な取り組み	自己診断	達成状況	達成度	今後の改善方策
A る矜し 在持日 をの韓 涵自国 養覚人 すとと	⑧ 韓国語学習の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国と同じICT教材による韓国語学習(継続)</li> <li>韓国語の単語学習アプリや学習プログラム</li> <li>単語副教材の開発</li> <li>韓国の学校とのオンライン授業交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9割以上が韓国語の学習向上を評価している。</li> <li>単語学習アプリでの自主的な学習が定着してきた。</li> <li>韓国語や韓国の文化を学ぶことを9割以上が肯定的に捉えている。</li> </ul>	⑧ 87%	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的な方策は継続していく。学年が上がっても、興味、関心、意欲を持って韓国語学習に取り組めるよう、更なる授業研究を図る。</li> <li>韓国語を学び、楽しく使う場面を継続していく。</li> <li>単語試験について内容や方法について再考する。</li> <li>ルーツを持たない児童への韓国語学習や民族教育のサポート体制を継続する。</li> </ul>
	⑩ 民族教育を通した人格形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある学校行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民族的素養を育む教育活動が十分に展開できた。</li> </ul>	⑩ 98%		
B 力国を 際育社 会に 主 体 的 に 適 應 で き る 能	② 授業の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援学習の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9割近くの児童が授業は分かりやすいと感じ、宿題などの家庭学習も身につけている。</li> </ul>	② 85%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力定着・向上については、学習支援員による個別学習や授業への入り込み補助教員を継続していく。</li> <li>学習の基盤となる日本語の基礎学習を継続していく。</li> <li>教員相互の授業見学や授業力の向上の研修を継続していく。</li> <li>日常で児童が自ら伝達、発信する機会や場面を増やしていく。</li> <li>「情報」の教科を新設し、主体的なICT活用を促進していく。</li> <li>一人1台学習端末を整備する。</li> <li>学習内容はレベルアップしており、全般的な方策は継続していく。</li> <li>家庭と協力しhomeworkやアプリ学習への個別支援を継続する。</li> <li>個人の英語力の向上を肯定的に捉えることができる方策を研究する。</li> <li>日常的に楽しく英語を使い発表する形態を研究していく。</li> </ul>
	③ 教員の授業力	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の基礎調査、分析、補習の実施(連携機関と協力)</li> <li>授業改善に向けた研究授業、教員研修の実施(年10回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の学習支援や日本語の個別学習を含め、学習課題への取り組みが9割以上と高評価だった。</li> </ul>	③ 96%		
	⑦ 課題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>副教材や問題集の系統化と課題の研究(継続)</li> </ul>		⑦ 89%		
	④ 発表力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習、協働学習での伝達、発表力の実践研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度より5%改善し、概ね達成はしている。</li> </ul>	④ 73%		
	⑤ 体験・探求授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働学習、体験授業の計画実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流体験型学習が復活し昨年度より高評価となった。</li> </ul>	⑤ 85%		
⑥ ICT教育・デジタル機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に応じたデジタル教科書やタブレット、アプリの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT、タブレット学習の活用はほぼ達成している。</li> </ul>	⑥ 94%			
⑨ 英語学習の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語科カリキュラムの編成、レベルアップ</li> <li>英語単語アプリを3年生から導入</li> <li>英検、英検Jr受験学年の引き下げと受験級数の拡大</li> <li>校内Recitation大会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の項目と比べると低く、概ねの達成であった。</li> <li>英語科の到達目標引き上げや3年生の単語学習強化による児童の負担感が反映されたと考えられる。</li> </ul>	⑨ 75%			
C する社実 自人 会会 主主 践践 。間 にを 的的 なな 育育 仕仕 しし 生 成 す て 活	⑩ いのちの大切さ・人権の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年別にいのち・性・思春期学習と人権福祉学習を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面での特別授業で児童の学習評価も高かった。</li> </ul>	⑩ 96%	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉授業は、より子ども達が自主的で発展的な活動が行えるよう、教員の研究や研修への参加を推進していく。</li> <li>いのちの授業、思春期学習は継続実施していく。</li> <li>今後も子どもが困りごとを相談しやすい校内環境づくりに努める。教員による積極的な声かけや見守りを継続し、問題を早期発見し、チームで解決する体制を継続していく。</li> </ul>
	⑬ 行事や活動への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事参加への個人の目標と役割の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の動機や取り組みを児童も肯定的に捉えている。</li> </ul>	⑬ 94%		
	⑮ きまり・ルールへの遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートの年2回実施、通学ルールの学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の9割以上がきまりやルールを遵守できている。</li> </ul>	⑮ 92%		
	⑯ 教員の対応力	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間の共通認識と理解、連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困りごとに対する教員の対応力も、9割以上が肯定的な評価だった。</li> </ul>	⑯ 92%		
D を個 育性 を伸 長し、 創 造 性	① 学校生活の楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活再開への柔軟なサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活や行事の再開に向けては、サポートが必要な児童に対しては個別対応ができていたと捉えている。</li> </ul>	① 88%	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も学校行事や委員会活動が個々の自主性や情操教育に繋がるよう計画、実行していく。</li> <li>肯定的な結果も真摯に受け止め、より一層教育活動を充実し、全教員で改善できることを実践していく</li> <li>SNSトラブルや情報モラルについて、児童自らが判断し行動できるような学習形態を研究していく。</li> </ul>
	⑫ 学校行事の充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事における委員会活動の活発化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員との関係、帰属意識も9割以上と高評価だった。</li> </ul>	⑫ 91%		
	⑰ 自己肯定感、帰属意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブル未然に向けた教員間の意見交換や連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の9割以上が友だち関係を肯定的に捉えている。</li> </ul>	⑰ 90%		
	⑲ 友だち関係、相互理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSノートを活用した情報モラル学習の実施(年6回)</li> </ul>		⑲ 92%		
	⑪ 防災学習・安全安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災、安全教育の年間計画での実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>系統的な防災学習、安全教育ができています。</li> </ul>	⑪ 91%		
	⑭ 学習環境の美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動、委員会による定期的な清掃美化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習環境の美化、清掃活動はほぼ達成できている。</li> </ul>	⑭ 89%		
⑯ 公共性・ものを大切に扱う心	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業、振り返りシートでの啓蒙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共性や道徳性を考え行動できている。</li> </ul>	⑯ 94%			